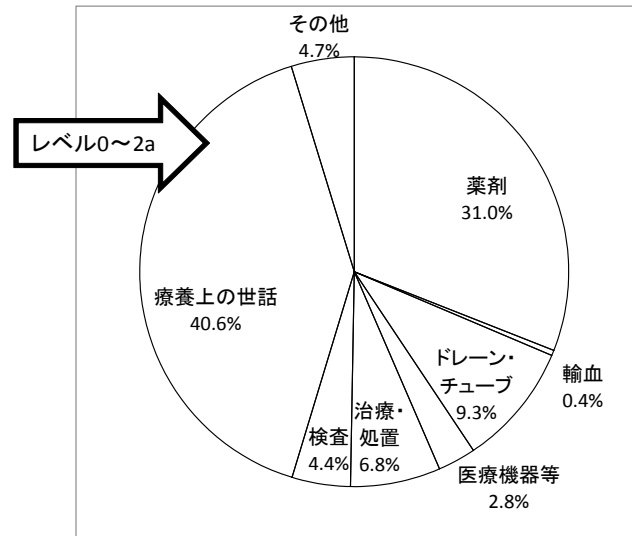


道立病院における医療事故等の発生状況
〔平成25年度上期（平成25年4月～平成25年9月）〕

1. 医療事故等のレベル別発生状況

区分	レベル	件数	割合
インシ デント	レベル0	468	26.7%
	レベル1	1,135	64.9%
	小計	1,603	91.6%
医 療 事 故	レベル2 a	131	7.5%
	レベル2 b	12	0.7%
	レベル3	2	0.1%
	レベル4	0	0%
	レベル5	2	0.1%
	小計	147	8.4%
	合計	1,750	

2. レベル0～2aの種類別割合



3. レベル2b～レベル5の発生状況

■一括公表（過誤なし）

レベル	件数	事例
2b	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン中に左足首を捻り、左足関節外踝骨折でギプス固定となった。 ・靴を履く際に転倒し、後頭部裂傷で縫合処置となった。 ・排泄後に立ち上がろうとして転倒し、腰椎圧迫骨折でコルセット装着となった。 ・左第2趾の骨折が発見され、シーネ固定となった。 ・脱衣場で下着をはこうと片足を上げた際に転倒し、左前頭部裂傷で縫合処置となった。 ・病室内でふらついて転倒し、頸部裂傷で縫合処置となった。 ・他患者に右手首を強く掴まれた際に裂傷し、縫合処置となった。 ・椅子につまづいて転倒し、鎖骨骨折でクラビバンド固定となった。 ・自殺未遂により一過性の意識障害が発生し、点滴、酸素処置となった。 ・ペースメーカー植込み術のため入院中、首の痛みと運動制限が出現し、治療が必要となった。
3	1件	・病室のドアを足で開けてバランスを崩して転倒し、左大腿骨頸部骨折で手術となった。
5	2件	・自殺

■概要公表（過誤あり）

レベル	件数	事例	原因	改善・対応策
2b	2件	【事例1】 輸液ポンプの閉塞アラームが鳴ったため、点滴チューブの確認をして再開したところ、ルート内にたまっていた薬液が急速に投与され、一時的に血圧が低下した。輸液量の増量等により回復した。	・閉塞アラームが鳴った際、一旦、輸液を停止して、挿入部やチューブの状況を確認の上、医師の指示を仰ぐべきだったところを指示を受けずに再開した。	・手順の徹底、遵守。 ・輸液ポンプの閉塞アラームが鳴った際の手順の再確認と教育を徹底する。
		【事例2】 患者の鎮静のために使用した麻薬の持続静脈注射の過量投与により、血圧が低下した。強心薬や輸液量の増量により回復した。	・患者用薬剤入り注射器を高濃度の薬剤が入った別の注射器と取り違えた。 ・注射開始時の薬剤確認が不十分であった。	・注射開始時の薬剤確認を徹底する。 ・シリンジに分かりやすく内容を表示する。
3	1件	【事例1】 抗痙攣薬の指示量を誤り、患者に過量の薬剤が投与されたことにより、血圧が低下した。心臓マッサージや強心剤の使用により血圧が安定した。	・医師が指示箋の記載を誤った。	・指示箋を記載後、必ず内容確認を行う。 ・看護師へ指示を出す際、内容を直接伝える。